

卒業論文

～メガスポーツイベントの成功と地域活性化～

明治大学経営学部公共経営学科

学籍番号 1740170287

4年 11組 14番 五幣 諒

- I はじめに
- II スポーツイベントの分類
- III メガスポーツイベントの開催による経済効果の発生
 - III-i メガスポーツイベントの特徴
 - III-ii ラグビーワールドカップ日本大会
 - III-iii ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の各開催都市の経済効果
- IV 岩手県釜石市の取り組み
 - IV-i 釜石市の歴史
 - IV-ii 釜石とラグビー
 - IV-iii 復興とラグビーワールドカップ誘致
 - IV-iv ラグビーワールドカップ開催に向けた釜石市の取り組み
- V ラグビーワールドカップ 2019 が盛り上がった要因
- VI おわりに
- VII 参考文献一覧

I はじめに

日本では東京オリンピックの開催が決定してから 2015 年にスポーツ庁が創設され、競技力の向上や、スポーツの国際化などに多くの予算を割くようになり、スポーツで国を盛り上げようといった意識が高まっていることがわかる。東京オリンピックのみならず 2019 年にはラグビーワールドカップが開催され、各地方自治体もこれを機に地方創生を成し遂げるべく事前合宿地や選手村などの滞在地にするなどの準備がみられた。

文部科学省スポーツ庁ホームページには、「スポーツを通じた地域経済化のためには、スポーツ産業の活性化・スポーツ環境の充実・そしてスポーツ人口の拡大がつながっていく好循環が重要である。スポーツツーリズムや、多数の参加者・観衆が見込めるスポーツイベントの開催、大規模な大会やスポーツ合宿の誘致等のスポーツを核とした地域活性化に向けた取り組みを推進するとともに、スポーツ施設の魅力・収益性の向上・スポーツ経営人材の育成・スポーツと他産業の融合そして拡大など、スポーツを我が国の成長産業へと転換していくための取り組みを推進していく。」という記載がある。¹このように国もスポーツを軸にした地域経済活性化の取り組みを推進していることがわかる。

一口にスポーツイベントと言っても、後述するようにスポーツイベントにはさまざまな種類がある。その中で筆者はスポーツイベントの中で一番規模や発生する経済効果などが大きく、世界中の人々が注目するであろうオリンピックをはじめとするメガスportsイベントと呼ばれるイベントに焦点を当てる。そして、2019 年に日本で開催されたラグビーワールドカップ 2019 日本大会がメガスportsイベントに該当するので、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会とその開催都市の一つである岩手県釜石市を事例に、日本においてメガスportsイベント自体を盛り上げるために必要な条件と、メガスportsイベントの開催がその開催都市の活性化にどのようにつながるかを研究していく。

II スポーツイベントの分類

メガスportsイベントと地域活性化について述べる前に、スポーツイベントの分類とスポーツイベントが持つ特性を述べていきたいと思う。

スポーツイベントには、市町村主催の小さなスポーツイベントから、国民体育大会や、プロ野球やサッカーJ リーグなどのプロスポーツの試合のように毎年日本各地で開催されるもの、オリンピックやワールドカップのように隔年で開催され、世界的規模で注目を集めるメガスportsイベントなど多くの種類が存在する。各スポーツイベントの参加者も、競技レベルを問わず誰でも参加できるものから、オリンピックのように選ばれた世界のトップレベルの人間しか出場できないものまで多様である。

¹ https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop09/1371880.htm スポーツ庁スポーツによる地域・経済の活性化 (2020 年 10 月 20 日閲覧)

このようなスポーツイベントを「直接参加型スポーツイベント」と、「間接的参加型スポーツイベント」に区分した。²我々一般人にとって前者は実際に自らが「する」スポーツ、後者はするスポーツに対して「みる」スポーツであるといえる。後者は間接的参加者の数が増えることでそのイベントの規模が大きくなり社会的影響・効果が増え、イベントらしきが増すと指摘している。

次にスポーツイベントが与える効果についてであるが、2011年に制定・施行されたスポーツ基本法から一部引用すると、

- ・「スポーツは人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであり、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与する」
- ・「スポーツは、我が国社会に活力を生み出し、国民経済の発展に広く寄与するものである。また、スポーツの国際的な交流や貢献が、国際相互理解を促進し、国際平和に大きく貢献するなど、スポーツは、我が国の国際的地位の向上にも極めて重要な役割を果たす。」
- ・「当該地域における全ての人々の交流が促進され、かつ、地域間の交流の基盤が形成されるものとなるよう推進されなければならない。」とある。³

このあたりがスポーツ自体はもちろん、スポーツイベントにも当てはまるのではないかと。これらはスポーツイベント開催によって発生する「社会的効果」であり、以下の表1のような効果がある。

表1 スポーツイベント開催による社会的効果

項目	社会的効果の内容
1. 地域情報の発信	スポーツイベントに関連した地域情報の発信、マスメディア・参加者・観戦者等の来訪による地域情報の発信
2. 地域のスポーツ振興	スポーツ人口の増大、スポーツ機会の増加、スポーツのイメージの向上等
3. 国際交流の促進	スポーツイベント参加者・ボランティア・観戦者等、海外からの来訪者と地域住民との国際交流の促進
4. 青少年の健全育成	スポーツ競技者・指導者などの健全育成、体育として青少年の心身の健全育成
5. ボランティア・NPO組織の育成	ボランティアやNPO関係者・組織等の育成、地域活動リーダー等の育成
6. 地域アイデンティティの醸成	住民の地域に対する帰属意識（おらが村意識）の創出・高揚・醸成、地域のシンボル化・知名度の向上などによる地域愛着心の醸成等
7. 地域活動の促進（地域コミュニティの形成）	地域住民の連携、地域住民・企業・行政の連携、住民組織の形成・連携、地域社会の結束力の向上等（これらの結果として地域活動が促進）
8. 地域間・地域内交流の促進	開催地域あるいは開催地と関連ある地域（姉妹都市等）との交流の促進、開催地域内・キャンプ地域内での住民・企業・行政間の交流の促進等

出典：マッセ OSAKA 第 21 号「スポーツ活用戦略」

これらに加え、スポーツイベントを「開催」することによって得られる効果も多数存在

² 原田宗彦 2002『スポーツイベントの経済学—メガイベントとホームチームが都市を変える』平凡社

³ https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/attach/1307658.htm 文部科学省 スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）（条文）（2020 年 10 月 20 日閲覧）

する。開催前は、開催都市をはじめとする様々なところに巨額の資金が投入されインフラなどが整備される。そして開催期間中には日本からだけでなく海外からも多数の観戦者・観光客が各地から訪れ、消費行動を行う。このように経済の面でも多くの効果が発生し、その効果は経済波及効果と呼ばれ、その内訳は、「直接効果」・「第一次間接効果」・「第二次間接効果」である。それぞれラグビーワールドカップ 2019 日本大会開催後経済効果分析レポートによると以下の通りである⁴。

・直接効果…開催準備機関から大会期間におけるスタジアム等インフラ整備、大会運営費、国内客による消費、訪日外国人客による消費などの新規需要にあてられた国内商品・サービス生産額

(例)訪日外国人が日本のレストランで日本酒や国産牛ステーキを飲食した際に支払った金額

・第一次間接効果…開催準備期間から大会期間における直接効果によってサービスふらーチェーンを通じて発生する国内商品・サービス生産額

(例)上記の例に用いられた日本酒酒造メーカーや国産牛畜産農家の生産金額

及びそれらに用いられた国産米・飼料等原材料の生産業者の生産額

・第二次波及効果…開催準備期間から大会期間における直接効果によって発生した雇用の増加によりもたされた消費の拡大による国内商品・サービス生産額

(例)上記レストラン、酒造メーカー、畜産農家、国産原料生産業者における雇用者給料の増加によって生じた国産商品・サービスおよびその国産原材料の生産額

このようにスポーツイベント開催によって発生する効果は大きく分けて社会的効果と、経済的効果があることがわかる。

Ⅲ メガスポーツイベントの開催による経済効果の発生

Ⅲ-i メガスポーツイベントの特徴

メガスポーツイベントとは、前項Ⅰで述べたように数千人のスポーツ選手と数百万人の観客を動員し、スポーツイベントの中でも最大規模のものである。夏季オリンピック・パラリンピック、FIFA ワールドカップ、ラグビーワールドカップは世界三大スポーツイベントと呼ばれ、メガスポーツイベントの代表格である。開催期間はオリンピック・パラリンピックが約2週間、FIFA ワールドカップが約1か月の開催であるのに比べてラグビーワールドカップは約1か月半と開催期間が長くなっているのが特徴である。観客数は、オリンピックは多数の競技を行うため700～800万人と多くっており、FIFA ワールドカップは300万人台、ラグビーワールドカップは約250万人という規模で開催されている。⁵

⁴ <https://www.ejapan.jp/newsroom/2020/pdf/2020-06-24-ey-the-economic-impact-rcw2019.pdf> ラグビーワールドカップ 2019 日本大会開催後経済効果分析レポート 経済波及効果に関する用語 (2020年11月10日閲覧)

⁵ <https://www.rugbyworldcup.com/news/391680>

WORLD RUGBY 世界三大スポーツイベント、ラグビーワールドカップが日本にもたらす価値 (2021年1月12日閲覧)

ラグビーワールドカップは他の2つのメガスポーツイベントと比べて、2つの大きな違いがある。

1つ目はラグビーワールドカップの開催場所は「国」単位であるという点である。

オリンピックは開催場所が国の中の単一都市に限定されるのに対して、ラグビーワールドカップは、国の中の複数都市にまたがって開催されるという点である。後述するが、ラグビーワールドカップ2019日本大会では北は北海道、南は熊本と広範囲での開催となった。

2つ目は開催期間の長さである。

ラグビーというスポーツが持つ特性として、身体を激しくぶつかり合わせるスポーツのため、体力・身体の消耗が激しい。そのため1試合1試合の間隔が4日から7日ほど空くのが通常となっておりオリンピックが約2週間、FIFAワールドカップが約1か月の開催であるのに比べてラグビーワールドカップは約1か月半と開催期間が長くなっているのが特徴である。

以上の2つから、ラグビーワールドカップは開催都市も広範囲にわたり、開催期間も長いのでより大きな経済効果が生まれると筆者は考えたのでラグビーワールドカップを研究対象とする。

III-ii ラグビーワールドカップ2019日本大会

次に、昨年日本で開催されたラグビーワールドカップ2019日本大会について詳しく述べていきたいと思う。

4年に1度開催される15人制ラグビー世界王者決定戦となるのがラグビーワールドカップである。先述したように、約7週間で行われるラグビーワールドカップは、夏季オリンピック・FIFAワールドカップと並ぶ世界三大スポーツイベントの一つとされている。

ラグビーワールドカップ2019日本大会は、2019年9月20日から11月2日の44日間にわたり日本で開催された第9回ラグビーワールドカップのことである。

ラグビー界には、各国の世界ランキングの他に、ラグビー界には「ティア」と呼ばれる階級が存在する。強豪国のティア1、中堅国のティア2、発展国のティア3の3つで構成され、それぞれの区分けには厳密な規定は存在せず、その国の強さや伝統によって決定される。ティア1が10か国、ティア2が13か国で構成されている。

過去8大会の開催はすべてティア1の国での開催であり、昨年開催された日本大会がティア1以外の国では初めて、またアジア地域初、さらには7人制ラグビーがオリンピック種目に採用されてから初めての開催ということでも注目を集めた。⁶キャッチコピーは「4年に一度ではない。一生に一度だ。-ONCE IN A LIFETIME-」であり、大会ビジョンは『「絆 協創 そして前へ」日本と世界の人々を強い絆で結び、誰も経験したことのないラグビーと仲間たちの祭典を協創しよう。すべての人の輝く未来へ、進もう心ひとつに。』である⁷。開催都市は日本全国に広がり、北から順に北海道札幌市・岩手県釜石市・埼玉県熊

⁶ 開催当時、日本はティア2であったが、ラグビーワールドカップ2019日本大会でベスト8という好成績を取めた結果、現在はティア1に昇格している。

⁷ <https://www.rugbyworldcup.com/news/138111> ラグビーワールドカップ2019 大会概要 (2020年11月10日開

谷市・東京都調布市・神奈川県横浜市・静岡県袋井市・愛知県豊田市・大阪府東大阪市・兵庫県神戸市・福岡県福岡市・大分県大分市・熊本県熊本市の計 12 の都市で合計 45 試合が開催された(当初は 48 試合の予定であったが台風 19 号の影響で 3 試合が中止)。

そして、筆者が考える開催都市にとって期待されるメリットは以下の通りである。

- ・地域や観光地としての認知度アップ
- ・まちづくりやコミュニティ形成など地域文化の活性化
- ・海外からの来訪者との国際交流
- ・スタジアムをはじめとするインフラ整備
- ・観光や消費による経済効果の発生

また、Ⅲ-1 で述べたように、ラグビーというスポーツの性質上 1 試合 1 試合の間隔が 4 日から 7 日ほど空くのが通常となっており、オリンピックが約 2 週間、FIFA ワールドカップが約 1 か月の開催であるのに比べてラグビーワールドカップは約 1 か月半と開催期間が長くなっているのが特徴である。そのため、海外から訪れる観光客の多くが長期間の滞在をし、さらに自分が応援するチームの試合を観戦するため各会場を移動する。試合観戦と併せて各地を観光、レジャーなど滞在を好む傾向が強い。そのため、オリンピックなどに比べて広い範囲で経済効果が発生するのもラグビーワールドカップの特徴である。

そして、大会が開催される都市では、会場の他にファンゾーンと呼ばれる場所を設けている。ファンゾーンでは、大型ビジョンを使用した試合のライブ中継や、ラグビーを体験するコーナーなど、ラグビーワールドカップ 2019 ならではのコンテンツを誰でも無料で楽しむことが出来る。スタジアム以外でも「一生に一度」の経験を肌で感じることができ、国内外から訪れるファンとの交流ができる機会となっている。

ラグビーワールドカップ 2019 の来場者数は延べ 170 万 4443 人、ファンゾーン来場者数は約 113 万 7000 人(前回の英国大会は約 105 万人)と、ラグビーワールドカップ史上最高の動員数を記録した⁸。また、大会結果は優勝国が南アフリカ共和国・準優勝国がイングランド・3 位がニュージーランドという結果に終わった。

Ⅲ-iii ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の各開催都市の経済効果

次にラグビーワールドカップ 2019 の結果を数字で詳しく振り返っていきいたいと思う。

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会大会分析レポートを参照する。

スタジアム入場者数は延べ人数 170.4 万人で、最高入場者数は南アフリカ対イングランドの決勝戦で 70103 人を記録した。チケット販売枚数は 183.7 万枚でチケット販売率は 99%であった。開催前に、「全ての試合でスタジアムを満員にする」という高いチケット目標を掲げていたため、これは大成功であったといえる。そして売り上げチケット収入は 389 億

覧)

⁸https://assets.ey.com/content/dam/ey-sites/ey-com/ja_jp/news/2020/pdf/ey-rugby-world-cup-2019-review-of-outcomes-j.pdf ラグビーワールドカップ 2019 日本大会大会成果分析レポート 満席になったスタジアム (2020 年 10 月 24 日閲覧)

円(259百万ポンド)に達し、大会全体の収益向上に大きく貢献した。

これに加えて、ラグビーワールドカップ 2019 では観戦チケットに食事やラグビーの専門家による試合の解説、特設ラウンジでのおもてなしなどといった付加サービスを加えたホスピタリティパッケージという種類のチケットも販売され、合計販売額は約 100 億円(67百万ポンド)を超え、利用者は国内外合計で 6 万人を超えた。⁹

そして、12 の各開催都市の経済効果や来場者は以下の表 3 の通りである。

表 3 ラグビーワールドカップ 2019 における各都市の数値(資料を基に筆者作成)

開催都市	経済波及効果(各都道府県)	GDP 効果	ファンゾーン来場者数	スタジアムチケット販売数
札幌市(北海道)	120 億円	71 億円	52,397 人	78,840 枚
釜石市(岩手県)	105 億円	61 億円	38,982 人	15,343 枚
熊谷市(埼玉県)	280 億円	148 億円	71,791 人	15,343 枚
東京都	1,757 億円	951 億円	310,500 人	372,435 枚
横浜市(神奈川県)	400 億円	211 億円	153,700 人	395,892 枚
袋井市(静岡県)	204 億円	112 億円	113,777 人	190,589 枚
豊田市(愛知県)	120 億円	68 億円	60,432 人	113,419 枚
東大阪市(大阪府)	391 億円	215 億円	38,701 人	86,516 枚
神戸市(兵庫県)	124 億円	68 億円	88,000 人	109,607 枚
福岡市(福岡県)	154 億円	85 億円	43,384 人	53,952 枚
熊本市(熊本県)	129 億円	69 億円	50,723 人	56,544 枚
大分市(大分県)	199 億円	109 億円	114,901 人	173,605 枚

IV 岩手県釜石市での取り組み

IV-iii 釜石市の歴史

これまではラグビーワールドカップ 2019 日本大会の全体の概要について詳しく述べてきたが、次に大会開催都市の 12 都市のうちの一つである岩手県釜石市がどのように今大会を迎えたか述べていく。12 の都市の中から釜石を選んだ理由としては、古くからラグビーと密接な関わりがあること、釜石市が 2011 年の東日本大震災で甚大な被害を受け、今も復興の途中であること、そしてその復興の一環としてこのラグビーワールドカップ 2019 の開催を誘致したことなどが挙げられる。

まずは釜石の歴史であるが、釜石市(旧上閉伊群・気仙郡)は、岩手県南東部に位置し、世界三大漁場の一つである北西大西洋漁場の一角を形成する三陸漁場と、典型的なリアス式海岸が特徴の市である。人口は約 3 万人、世帯数は約 16000 である。¹⁰

漁場の中心地かつ、良質な鉄鉱石が採掘できたことから釜石は古くから「鉄と魚のまち」

⁹ 8 に同じ(2020 年 11 月 7 日閲覧)

¹⁰ <https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2020051300056/> 釜石市 釜石市の人口・世帯 (2020 年 11 月 7 日閲覧)

として発展してきたが、その中でも鉄が大きな影響を与えていた。時は遡ること安政4年(1857年)、盛岡藩主であった大島高任が洋式高炉を作ったことから釜石の鉄の歴史が始まる。鉄鉱石精錬による出銑(しゅっせん:高炉の中で精錬された銑鉄が溶接状態で湯だまりになっているものを取り出すこと。)に成功した。このため、釜石は日本における近代製鉄業発祥の地となった。当時の高炉跡などは国指定の文化財に指定されている。¹¹

IV-ii 釜石とラグビー

釜石市におけるラグビーの歴史は、1959年に富士製鉄(現在の日鉄)製作所で、ラグビー同好会が発足したところが始まりである。ラグビーのまちとして全国に認知されるようになったのは、1980年代に活躍した新日本製鐵釜石製作所ラグビー部(通称:新日鐵釜石ラグビー部)の存在である。新日鐵釜石ラグビー部は、ラグビー日本一を決める日本ラグビーフットボール選手権大会という大会で、1979年から1985年の間で7連覇という快挙を成し遂げたその記録的強さから「北の偉人」と呼ばれた。¹²そして同時期の1984年に高校ラグビーを題材にしたテレビドラマ「スクール☆ウォーズ」がヒットし、日本ではラグビーブームが沸き起こった。

しかし、7連覇を成し遂げた後から新日鐵釜石ラグビー部の成績は徐々に低迷していくことになる。1992年を最後に全国社会人ラグビー大会への出場が途絶えてしまう。加えて新日鐵の経営も悪化していった。2000年には新日鐵本社は社内運動部の単独運営を辞めることを決定した。

そこから時は流れ2001年には、新日鐵釜石ラグビー部は地元の住民の方の署名活動などの協力もあって、地域型クラブチームとして生まれ変わるようになった。「釜石シーウェイブス RWC」と名前を変え、ラグビーのトップリーグ入りを目指して現在も活動を続けている。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では沿岸部に位置する釜石市は甚大な被害を受けた。これまで過去に何回も津波による被害が発生していたため、釜石湾の入り口には世界最大級の防波堤を設置するなど、津波対策は万全であった。しかし東日本大震災が引き起こした巨大な津波はその防波堤すらも倒壊させ、被害は市の中心地にまで及び死者・行方不明者は1000人を超え、家屋の倒壊も3000棟を超える被害となってしまった¹³。市内のなかでも特に被害が大きかったのが鶴住居地区であり、被害は死者・行方不明者の半数を超えた。

IV-iii 復興とラグビーワールドカップ誘致

東北地方を中心に日本は復興への道を歩むことになり、釜石も復興への道を辿り始めることになった。2009年時点でラグビーワールドカップ2019の日本での開催が決まっては

¹¹ <https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2015080300030/> 釜石市 かまいしの歴史(2020年11月19日閲覧)

¹² <https://en-trance.jp/rugby> 縁とらんす かまいし情報ポータルサイト ラグビーのまち釜石(2020年11月19日閲覧)

¹³ <http://iwate-archive.pref.iwate.jp/higai/> いわて震災津波アーカイブ希望 東日本大震災による岩手県の被害状況(2020年11月19日閲覧)

いたが、2011年時点で開催都市はまだ決まっていない状態であった。そこで釜石市は東日本大震災からの復興に向けた取り組みの指針として2011年12月に策定された「復興まちづくり基本計画『スクラムかまいし復興プラン』」の中に、ラグビーワールドカップ2019の開催会場誘致を盛り込むことを決定した。ラグビーワールドカップの開催を通じて、復興の姿を発信、世界中からの支援に感謝を示すとともに、「スポーツの力」による地域の創生を目標とした。¹⁴

そして復興が少しずつ進んでいく中、2015年3月にラグビーワールドカップ2019の釜石での開催が決定した。選ばれた12都市の中で唯一既存のスタジアムがないにも関わらず、釜石でのラグビーワールドカップ開催が決まるとまちは少しずつ活気を取り戻しつつあり、被害が大きかった鶴住居地区にスタジアムを作ることを決めた。釜石鶴住居復興スタジアムは、収容人数約6000人であり、被災地唯一・さらに新設の会場であること、座席には2017年に発生した釜石市尾崎半島で発生した大規模火災の被害木の利用や、熊本県から寄贈を受けた椅子を使用していることなどが特徴である。¹⁵

ラグビーワールドカップの開催を通じて釜石は、釜石の魅力を世界に発信するだけでなく、世界各国の多様な文化に触れることで幅広い国際交流が生まれることや、世界トップレベルの選手のプレーを間近で観戦することでラグビーだけでなく他のスポーツ、あらゆる分野で世界を目指すきっかけとなることを期待していた。

次に、具体的に釜石市が行った取り組みをラグビーワールドカップ開催前・開催期間中・開催後に残されたレガシーの3つに分けて述べていく。

IV-iv ラグビーワールドカップ開催に向けた釜石市の取り組み

(1) 開催前

ラグビーワールドカップの釜石開催だけでなく、2016年には岩手県での国体の開催(ラグビー・トライアスロン)もあり、岩手県全体としてスポーツを通じたまちづくりへの意欲が高まっていた。これからのインフラ整備などのさまざまな事業を展開するために「スポーツ振興基金」を設置し寄付を募っている。

また、2017年に「ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会」を設立し、4つの柱を中心として活動を行った。¹⁶

① 大会開催の機運の醸成

新設スタジアムのオープニングイベントなどの機運醸成イベントや、各地でのイベントの場でのプロモーション、外国語での情報発信など。

② 観客等の円滑な輸送手段の確保

輸送用バスの確保や、JRら公共交通機関に対する輸送力強化の依頼

③ 観客・海外からの来訪者の受け入れ態勢の強化

¹⁴ <https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2012101200102/> 釜石市 釜石市復興まちづくり基本計画(2020年12月10日閲覧)

¹⁵ <https://kamaishi-stadium.jp/facilityguide/> 釜石鶴住居復興スタジアム 施設ガイド(2020年12月10日閲覧)

¹⁶ https://iwate-sports.or.jp/magazine/82/82_Part10-11.pdf 体協いわて ラグビーワールドカップ岩手・釜石開催(2020年12月10日閲覧)

大会を支える中心となるボランティア（400～800人）の確保や、ファンゾーンで実施する企画を熟考、駅・空港などの公共施設における案内バナーやフラッグなどの設置

④ 防災面と安全の確保

組織委員会と開催都市、消防警察の連携体制の構築、有事の際の対応検討。

特に、①の大会機運の醸成においては、開催スタジアムである釜石鶴住居復興スタジアムのオープニングセレモニーが盛大に行われた。復興のシンボルの完成を祝うとともに、ラグビーワールドカップの開催前に街を盛り上げること、さらには実際に試合を行うことで運営面での課題を明らかにすることが目的であった。

(2) 開催期間中

大会開催期間中には、スタジアムだけでなくファンゾーンでのファン同士の交流や、ファンゾーン周辺でのイベント開催、さらには公認キャンプ地で国際交流の促進など、事前に予測されたことが問題なく行われた。

また、予定されていたナミビア対カナダの試合が台風の接近のため中止になった際には、カナダ代表の選手たちが泥かきなどのボランティアに参加、ナミビア代表の選手は宮古市に訪問し現地市民との交流を行った。これらのボランティア活動は、国内外を問わず大きな注目を集めた。

そして今大会における岩手県の経済波及効果は、表3にあるように105億円（約70万ポンド）となり、スタジアム整備などのインフラ整備が約68億円、宿泊と飲食による経済効果が約3.4億円と大きな割合を占める結果となった。¹⁷

(3) 大会開催後に残されたレガシー

ここでいう「レガシー」は「先人の遺物」という辞書的な意味ではなく、大会を開催することで社会、地域、人々の心に残るものという意味で使用する。

記録にも記憶にも残る大盛り上がりを見せたラグビーワールドカップ2019日本大会であるが、開催前の準備や、開催期間中に生まれた人々の交流が開催後にも好影響を与えており、大きく分けて5つに分類することが出来る。

① スポーツそのものの振興

② 開催都市のイメージアップ

日本の歴史や魅力を世界に向けて発信する

③ 国際化の推進

訪日客との交流のなかで生まれた国際意識や、ホスピタリティの精神

④ スポーツ施設の整備

スタジアムをはじめとする施設の充実による地域の活性化や地元住民の意識改革
大会や公認キャンプの開催という実績を持ち、それを活かしてさらに大会誘致などを行う。

¹⁷ <https://www.ejapan.jp/newsroom/2020/pdf/2020-06-24-ey-the-economic-impact-rwc2019.pdf> ラグビーワールドカップ2019日本大会 開催後経済効果分析レポート 開催都市の経済効果(2020年12月15日閲覧)

⑤ 地域の活性化

大会開催によって得た地域の特性を活かした個性豊かなまちづくり

大会の開催を通じて雇用やビジネス機会の創出へ繋げ、更なる地域経済の発展を目指す。

また、これらに加えて持続可能性がとても重要であると私は考えた。これまで述べてきたように、メガスポーツイベント開催が決定すると、開催都市ではインフラの整備や各種施設の整備をはじめとする様々な効果が現れる。これらの開催前に整備したものをこれからのその地域の発展につなげていくことが求められる。

例を挙げるとすれば、1964年の東京五輪の開催決定後に東海道新幹線や首都高速道路の開通したことや、国立代々木競技場や東京体育館が建設されるなど、これらの施設は現在も使われており、東京をはじめとする日本のインフラの活性化、スポーツ事業の活性化に大きな役割を果たしている。¹⁸

一方、2016年に開催されたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピック開催の際に整備されたゴルフ場は、巨額の資金を投入して整備したにもかかわらず、現在は有効に活用できているとは言い難い状況である。¹⁹

釜石市もラグビーワールドカップの開催において様々な施設を整備してきたが、これらを今後有効活用していくことが求められる。釜石市は今大会で整備した施設を活かすべく、釜石を国内外問わずラグビーチームのキャンプの定番の地としようとしている。また、今大会の開催にあわせて新設された鶴住居復興スタジアムは、被災地唯一のスタジアムであることから、スタジアムとしての機能だけでなく防災のシンボルとして防災の重要性を訴えることもよいのではないかと筆者は考えた。さらに、鶴住居復興スタジアムの周りに、ブドウ園を造り、「ワールドスポーツワイナリー&ツーリズム」プロジェクトを進めている。²⁰ラグビーワールドカップの開催を契機とし、ラグビーとワインを融合させる取り組みを行っている。観戦に訪れた多くの観光客の目に留まりやすく、ラグビーだけでなくワインでもまちおこしをしようという狙いがある。

施設などの目に見える有形のレガシーを持続的に利用することも重要であるが、メガスポーツイベント開催において発生した新たなコミュニティや、ホスピタリティ精神、さらに地域住民の意識の変化など、目には見えない無形のレガシーを残していき、新たな地域土壌の形成に貢献することも開催後のレガシーとして求められている。

V ラグビーワールドカップ 2019 が盛り上がった要因

ここまでラグビーワールドカップ、開催都市である釜石について詳しく述べてきたが、

¹⁸ https://www.jiji.com/sp/graphics?p=ve_spo_olympic2020-tokyo20191228j-01-w390 時事ドットコム 東京五輪2020・東京五輪の主な新旧レガシー(2021年1月19日閲覧)

¹⁹ https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/international/brazil/20181109.html 笹川スポーツ財団 2016年リオ大会のレガシーの今-東京が学ぶべき成功と失敗-(2021年1月19日閲覧)

²⁰ <https://www.google.co.jp/amp/s/www.nikkansports.com/m/general/nikkan/news/amp/201909240000909.html> 日刊スポーツ ラグビータウン釜石ワインで町おこし、実りのW杯(2021年1月19日閲覧)

ここではなぜラグビーワールドカップ 2019 がこれほどの盛り上がりを見せたのか考えていきたい。

まずはなんといっても日本代表の快進撃である。前回大会では「スポーツ史に残る番狂わせ」と言われる南アフリカからの大金星を挙げ、世界中で「ブライトンの奇跡²¹」と報じられ、国々を驚かせた。また、キックの際に両手を合わせるルーティーンで五郎丸歩選手が大きな話題を集めた。その歴史的勝利を経ての今大会であったため、注目度は前回よりは高かった。

そしていざ大会が始まると優勝候補であるアイルランドをはじめとする強豪国を次々に撃破、国民の注目度はうなぎ登りになっていった。このことはテレビの視聴率からも見て取れる。開幕戦となったロシア戦は関東地区で 18.3%、大金星で話題になったアイルランド戦は 22.5%、そしてその次のサモア戦では 32.5%と約 1.5 倍に激増した。次のスコットランド戦は 39.2%であった。²²

大金星で話題になったアイルランド戦からサモア戦の視聴率の上昇幅が他に比べて大きいことから、私は「にわかファン」の存在が盛り上がりには大きな影響を与えたと考える。

「にわかファン」とは、巷で大いに話題になっている人や事象などについて臨時のファンとなり、世間の盛り上がりに乗じて振る舞う人を指す語である。これに対して、流行に左右されることなく情熱を注ぎ続けている人は、「コアファン」と呼ばれている。²³

また、現地に観戦に行く人々の内訳を見ても、国内コアファンが 45.9%、海外ファンが 28.2%、国内非コアファンが 25.9%と観戦者の約四分の一がこれまでにラグビーをあまり見たことがない非コアファンであったという結果が出ている。²⁴さらに、大会が近づくにつれてチケット購入者は非コアファンの割合が増えている。

それに加え、ラグビーワールドカップ開催前にテレビドラマ「ノーサイド・ゲーム」が放送されたものにわかファンの増加につながっている。

日本人は流行に敏感な人が多く、特に近年は SNS を通じて爆発的に拡散、注目を集めるという意味である「バズる」という言葉が生まれたほどである。このことから SNS やテレビなどで目にする機会を増やし、非コアファンの注目を集めていくことが大会の盛り上がりには欠かせない要素であるといえる。Twitter 上におけるラグビーワールドカップ 2019 大会の公式ハッシュタグ(#RWC2019)のツイートは 581 万件を記録し、前回大会のイングランド大会と比べると約 80 万件も増加している。²⁵このように、SNS ユーザーの拡散がこれ

²¹ ブライトンとは、試合が行われたイングランドの地名であり、当時 W 杯 16 連敗中だった日本が、世界ランキング 3 位の南アフリカを破った試合のことを指す。

²² <https://www.google.co.jp/amp/s/rugby-rp.com/2019/10/15/worldcup/42651/amp>
RUGBY REPUBLIC (2020 年 12 月 15 日閲覧)

²³ <https://www.google.co.jp/amp/s/www.weblio.jp/content/amp/%25E3%2581%25AB%25E3%2582%258F%25E3%2581%258B%25E3%2583%2595%25E3%2582%25A1%25E3%2583%25B3> Weblio 辞書 にわかファンの意味や定義 (2020 年 12 月 15 日閲覧)

²⁴ https://assets.ey.com/content/dam/ey-sites/ey-com/ja_jp/news/2020/pdf/ey-rugby-world-cup-2019-review-of-outcomes-j.pdf ラグビーワールドカップ 2019 日本大会大会成果分析レポート RWC チケット購入者の内訳 (2020 年 12 月 20 日閲覧)

²⁵ https://assets.ey.com/content/dam/ey-sites/ey-com/ja_jp/news/2020/pdf/ey-rugby-world-cup-2019-review-of-outcomes-j.pdf ラグビーワールドカップ 2019 日本大会大会成果分析レポート 社会現象化した RWC2019 (2020

まであまりラグビーを見たことがなかった人々の関心を集め、にわかファンの増加に貢献した。

そして、経済的にも大きく成果を上げた理由としては、やはり来日観戦客の影響が大きい。ラグビーワールドカップ 2019 による訪日客の総数は約 24 万人を超え、それらの人々が多額の消費行動をしたことで大きな経済波及効果を生んだ。その中でも半数以上が欧米の人々であった。特に欧米のラグビーファンは富裕層であることが多く、さらに先述したように約 1 か月半という長い大会期間も相まって日本での滞在期間は約 16 日であり、試合観戦の合間に観光地を回るという人が多かった。訪日客の一人当たりの消費金額は約 68 万円と莫大な額であった。²⁶このように長い滞在期間と一人当たりの高い消費単価が経済波及効果を増大させた大きな要因であるといえる。そして、訪日客の 75%が「また日本へ来たい」と回答していることから、将来のインバウンドも生み出すことが期待される。²⁷

VI おわりに

ここまでラグビーワールドカップ 2019 日本大会が盛り上がった理由について述べてきたが、メガスポーツイベント自体の成功に必要なことが大きく分けて 2 つあると考えた。

一つ目は経済面での成功に関してである。数年に一度の開催であるメガスポーツイベントは、世界中の人々の関心を集め、世界各国から観戦のための観光客が訪れる。特に先述したようにラグビーワールドカップは開催期間が長く、試合観戦と同時に日本各地を観光して回る。アンケート結果にもあったように訪日観光客の満足度はとても高く、来日してくれさえすればある程度満足いく結果が得られる。問題はどのようにして来日してもらうかであると私は考えた。観戦するだけでなくその都市が持つ文化や観光地などの魅力をアピールしていくことが観光客増加に繋がり、その人々が消費活動を行うことで経済波及効果が増加し、地域の活性化につながる。

二つ目は国民の注目度を高めることが必要である。

先述したように日本人は流行ものを好む傾向が強く、周りに流されてしまうことが多い人が多い。なので、日本全体でイベントを盛り上げる土壌を作っていくことは大変重要であると考えた。テレビや SNS の影響力は計り知れないものがあり、それらが大変発達している現代において有効に利用しない手はない。全体でブームのような雰囲気にし、試しに見てみようという気持ちになるのが第一歩であると考えた。言い方は悪いがコアファンは何もしなくても興味を持ってくれるので興味のない非コアファンの興味をいかにして引く

年 12 月 20 日閲覧)

²⁶ https://assets.ey.com/content/dam/ey-sites/ey-com/ja_jp/news/2020/pdf/ey-rugby-world-cup-2019-review-of-outcomes-j.pdf ラグビーワールドカップ 2019 日本大会大会成果分析レポート 訪日観光客はどのように行動したか。(2020 年 12 月 20 日閲覧)

²⁷ https://resources.world.rugby/worldrugby/document/2020/06/24/f956dc73-bdc9-42b8-a303-63aa86352142/rwc2019_report_ja_web_200623.pdf ラグビーワールドカップ 2019 日本大会開催後経済効果分析レポート インバウンド情報 (2020 年 12 月 20 日閲覧)

か、初めの一步を踏み出しやすい環境を作っていくのが重要であると考えた。それによって実際に会場に足を運び、そのスポーツのファンになる場合もあり、次回以降の継続的な来場者の獲得につながることもある。

次に、メガスポーツイベントが開催した都市にどのような影響を与えるのかについてであるが、開催前には長い期間・巨額の資金を投じて環境の整備が行われる。そして、開催期間中は多くの観戦客が訪れ、大きな経済効果が生まれる。

開催都市の活性化において特に重要なのは、イベントが終了した後であることが分かった。開催の際に設立された施設などを大会終了後に廃れさせず、持続的に有効活用していくことが求められている。さらに、ラグビーと密接な関わりがある釜石市が、ラグビーを強みにしていこうと計画しているように、メガスポーツイベント開催で得た経験をもとに、今後のスポーツイベントの中心地として町おこしを狙っていくことも重要である。スポーツと地域文化を融合させた独自の文化をつくり、その町にしかない魅力をつくりだすことに成功し、それを前面にアピールしていくことが出来れば、地域活性化においてこれほど強力な武器になるものはないと筆者は考えた。

VII 参考文献一覧

- ・原田宗彦 2002『スポーツイベントの経済学－メガイベントとホームチームが都市を変える』平凡社
- ・堀繁・木田悟・薄井裕 2007『スポーツで地域をつくる』東京大学出版会
- ・小林至 2015『スポーツの経済学－2020年に向けてのビジネス戦略を考える』PHP 研究所
- ・https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop09/1371880.htm
スポーツ庁スポーツによる地域・経済の活性化
- ・https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/attach/1307658.htm
文部科学省 スポーツ基本法（平成23年法律第78号）（条文）
- ・<https://www.ejyapan.jp/newsroom/2020/pdf/2020-06-24-ey-the-economic-impact-rwc2019.pdf>
ラグビーワールドカップ2019日本大会開催後経済効果分析レポート
- ・https://assets.ey.com/content/dam/ey-sites/ey-com/ja_jp/news/2020/pdf/ey-rugby-world-cup-2019-review-of-outcomes-j.pdf
ラグビーワールドカップ2019日本大会大会成果分析レポート
- ・<https://www.rugbyworldcup.com/news/391680>
WORLD RUGBY 世界三大スポーツイベント、ラグビーワールドカップが日本にもたらす価値
- ・<https://www.rugbyworldcup.com/news/138111>
ラグビーワールドカップ2019 大会概要
- ・<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2020051300056/>
釜石市 釜石市の人口・世帯
- ・<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2015080300030/>
釜石市 かまいしの歴史
- ・<https://en-trance.jp/rugby>
かまいし情報ポータルサイト縁とらんす ラグビーのまち釜石
- ・<http://iwate-archive.pref.iwate.jp/higai/>
いわて震災津波アーカイブ希望 東日本大震災による岩手県の被害状況
- ・<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2012101200102/>
釜石市 釜石市復興まちづくり基本計画

- ・ <https://kamaishi-stadium.jp/facilityguide/>
釜石鶴住居復興スタジアム 施設ガイド
 - ・ https://iwate-sports.or.jp/magazine/82/82_Part10-11.pdf
体協いわて ラグビーワールドカップ岩手・釜石開催
 - ・ https://www.jiji.com/sp/graphics?p=ve_spo_olympic2020-tokyo20191228j-01-w390
時事ドットコム 東京五輪 2020・東京五輪の主な新旧レガシー
 - ・ https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/international/brazil/20181109.html
笹川スポーツ財団 2016年リオ大会のレガシーの今－東京が学ぶべき成功と失敗－
 - ・ <https://www.google.co.jp/amp/s/www.nikkansports.com/m/general/nikkan/news/amp/201909240000909.html>
日刊スポーツ 2019年9月25日 ラグビータウン釜石ワインで町おこし、実りのW杯
 - ・ <https://www.google.co.jp/amp/s/rugby-rp.com/2019/10/15/worldcup/42651/amp>
RUGBY REPUBLIC
- <https://www.google.co.jp/amp/s/www.weblio.jp/content/amp/%25E3%2581%25AB%25E3%2582%25F%25E3%2581%258B%25E3%2583%2595%25E3%2582%25A1%25E3%2583%25B3>
Weblio 辞書 にわかファンの意味や定義